

## 平成30年度 名古屋大学心の発達支援研究実践センター 心理発達相談室活動報告

心理発達相談室は、臨床心理士養成大学院の一種指定校および、本年度より公認心理師の養成大学院として、院生の訓練機関であると同時に、心理臨床活動を通して地域社会に貢献することを目的としている。

近年、心の問題はいたるところで取り上げられている。臨床実践を取り巻く環境や求められるニーズも多様化しており、後述するが、心理発達相談室が扱う相談内容も多岐に渡る。このような現状の中、いかに臨床訓練を積み重ね、自己研鑽を行っていくかは極めて重要な課題である。心理発達相談室では、平成27年度の「心の発達支援研究実践センター」への改組、他研究科との連携による相談室環境整備、臨床現場の実際に焦点を当てた紀要特集の企画などを通して、これらの課題に取り組み続けている。従来どおりの臨床実践、自己研鑽だけでなく、このような新たな視点からのアプローチは、相談室スタッフが実践的な視点を持つことに寄与する結果となった。

### I 相談員の構成

平成30年度の当相談室の人的構成は、教員13名、指導員34名、大学院研究生2名、大学院生40名、事務職員3名の総勢92名である。室長は、金子教授が務めた。平成30年度の相談室スタッフの名簿を表6に示す。

### II 相談活動

#### 1. 平成30年度新規相談受理事件数

平成30年度の新規受理面接数は71件であった(表1)。平成29年度の78件に比べ、数件減少している。

相談内容別の受理面接数を表2と表3に示す。12歳以前では、発達障害が14件(42%)、情緒障害が16件(48%)であり、本年度は発達障害の件数は前年と同程度である

が、情緒障害の件数および割合が前年と比べて増加していた。13歳以降の相談では、発達障害11件(27%)、親の相談8件(20%)、その他5件(25%)の順で割合が多かった。例年に比べ、発達障害の割合が増加していることや、その他に分類される内容も多く、発達障害についての意識が広く周知されていることや、相談内容が複雑で多岐にわたることが本年度の特徴の一つといえる。

#### 2. 平成30年度面接種別相談件数

平成30年度の面接種別相談件数を表4に示す。年間の相談件数の総数は2,872回であり、平成29年度の3,739回より減少した。その要因として、本年度、第6面接室および第3プレイルームを増設し、それらの改修工事等で閉室になる日が多かったことの影響がうかがえる。

面接種別では、平成29年度と同様に「臨床心理面接」が最も多く、1,157回であった。次いで「並行面接」、「遊戯面接」の順に多いことも前年度と同じである。現在、「集団心理面接」では、平成21年度から始まった発達障害児を持つ両親を対象としたペアレントトレーニングを実施しており、本年度は75回と、前年度の77回と同程度であった。

月別の相談件数の推移を見ると、最も面接数が多いのは3月であり、最も少ないのは12月であった。上記の改修工事による閉室が12月に行われたことも要因の一つとして挙げられる。年間を通して、「臨床心理面接」は80~120回程度、「並行心理面接」は60~90回程度、「遊戯面接」は50~80回程度とかなりのばらつきがみられた。

名古屋市の委託事業として実施している自死遺族カウンセリングの新規受理面接数は1件であった。

### III 研究活動

当相談室の研究活動としては、リサーチ会議、各種研

表1 受理面接ケースの年齢、性別

性別／(年齢)	乳幼児 (0~3)	就学前 (4~6)	小学生 (7~12)	中学生 (13~15)	高校生 (16~18)	大学生・成人 (19~)	計 (%)	自死遺族 カウンセリング	震災による 心のケア
男	0	3	17	6	7	5	38 (54)	0	
女	1	3	6	1	2	20	33 (46)	1	0
計 (%)	1	6	23	7	9	25	71 (100)	1	0
	30 (42)			41 (58)					

表2 12歳以前の相談内容別受理面接数

診断(主症状)	件数(%)
発達障害	14 (42)
広汎性発達障害	13
精神発達遅滞	0
注意欠陥・多動性障害	1
学習障害	0
情緒障害	16 (48)
親子間の問題	4
不登校	3
神経性習癖	2
集団適応・友人関係	3
臆	1
虐待	0
その他	3
計	30 (100)

表3 13歳以降の相談内容別受理面接数

相談内容	件数(%)
人格障害	0 (0)
発達障害	11 (27)
対人関係	0 (0)
不安神経症	4 (10)
うつ病	1 (2)
思春期・アイデンティティ	4 (10)
統合失調症	0 (0)
不登校	3 (7)
夫婦関係	4 (10)
外傷後ストレス障害	1 (2)
臆	0 (0)
強迫性障害	0 (0)
摂食障害	0 (0)
親の相談	8 (20)
精神障害	1
発達障害	1
子どもの不登校	0
親子関係	3
その他	3
その	5 (12)
計	41 (100)

研究会の開催、相談室紀要の刊行が挙げられる。相談室スタッフによる国内外における学会発表や学会誌への投稿も積極的に行われている。

平成30年度のリサーチ会議の内容を表5に示す。平成30年度は、教員による研究発表が2回行われた。本年度着任の教員による発表となり、スタッフが着任教員の臨床経験や専門領域を知る有意義な機会となった。今後もリサーチ会議の場を、スタッフの研究活動や臨床実践の活性化に役立つ場としていきたい。その他院生が主体となった勉強会や各研究会活動も活発に行われた。

年1回発行している相談室紀要では、平成30年度は「心理臨床家の自己研鑽」をテーマとし3編の特集論文が掲載された。また、1編の調査論文および事例論文が2編掲載され、近年の時事問題についての調査や、相談室活動を通しての研究実践報告が行われた。

学外での相互研鑽の機会として、平成30年度も「五大学合同事例検討会」が、広島大学が主幹校となって開催される予定であったが、「平成30年7月豪雨」の影響により、開催地の広島県をはじめとして西日本へ甚大な被害を鑑み、中止となった。

#### IV 教育・訓練体制

当相談室の教育・訓練体制の中心は木曜日の午前中に行われるケース会議である。ケース会議では、新規に受付した事例に関する報告や諸連絡事項の伝達を行う全体会の後に、5分科会に分かれて約2時間をかけてケース検討を行っている。ケース会議は、臨床心理士養成課程の「心理臨床研究実習Ⅰ」として位置づけられており、相談室の運営とケースの担当およびそのスーパーヴィジョンを受けることも含まれている。

スーパーヴィジョン制度は、ケース会議と並んで、相談活動の技量を高めるために大きな役割を果たしてい

表4 平成30年度 面接種別相談件数一覧

	平成30年					平成31年								合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
受理面接	12	4	7	11	3	4	2	7	4	2	7	8	71	
ガイダンス面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
検査面接	2	1	1	0	1	3	0	0	1	0	0	5	14	
遊戯面接	52	49	57	59	51	50	61	61	49	58	63	76	686	
臨床心理面接	116	107	109	107	86	83	102	93	73	81	88	112	1157	
並行心理面接	72	64	73	62	66	64	71	72	59	75	78	93	849	
集団心理面接	0	14	14	13	14	14	0	0	0	0	6	0	75	
家族合同面接	1	1	3	1	2	2	2	2	2	1	1	2	20	
計	255	240	264	253	223	220	238	235	188	217	243	296	2872	
自死遺族カウンセリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
震災による心のケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表5 平成30年度 心理発達相談室リサーチ会議ほか一覧

	演 者 (所 属)	題 目
第1回 (2018年6月28日)	田附紘平 (名古屋大学教育発達科学研究科)	イメージの力を信じる—発達障害と診断された男 児とのプレイセラピーを通して
第2回 (2018年10月18日)	狐塚貴博 (名古屋大学教育発達科学研究科)	私の臨床実践、これまでとこれから

る。新規スタッフは、当相談室教員を特定のスーパーヴァイザーとし、初年度の臨床実践指導を受けることが必須となっている。その他の大学院生スタッフは、ケースごとに教員や指導員、あるいは学外の臨床家によるスーパーヴィジョンを受けている。

相談室以外の教育訓練の場である実習については、医療領域、教育領域、産業領域、司法領域、福祉領域と幅広く充実した体制がとられている。これらは、本年度より、公認心理師の養成課程の一つである「心理実践実習」においても、単位として位置づけられており、相談室内外の実践の場がより重要な教育訓練の場となっている。

加えて、平成23年度から臨床心理士養成課程における大学院のカリキュラムが改訂され、前期課程1年の院生向けの講義を統合した「臨床心理学研究Ⅰ」「臨床心理学研究Ⅲ」がスタートしている。電話受付ガイダンスもこの講義の中に位置づけられている。

平成24年度から、相談室運営実習として、受付事務、資料整理、電話対応など、さまざまな相談室運営に関わる活動を体験する実習を実施している。

また、近年社会的にも重要視される個人情報の保護に関しては、平成25年4月の相談室ガイダンスから、相談室長による個人情報保護に関する研修会が行われている。

## V 相談室運営

当相談室は、教員から構成される相談室運営委員会、および教員（相談室長・臨床研究助手）と大学院生の各学年代表および各係代表から構成されるスタッフ委員会を組織し、相談室活動全般の企画運営を行っている。いずれも毎月1回の定例会を開催し、意見交換を行うとともに、相談室の諸問題を検討する場としている。その他にもスタッフ全員が参加するスタッフミーティング（定例では7月と3月の年2回）を開催して、円滑な相談室運営やスタッフ間の情報共有を心がけ、全構成員による運営を実現するよう努力している。

（文責：井手しほり）

表6 平成30年度 心理発達相談室スタッフ

教 員	金子 一史(相談室長)				
	松本 真理子	・	金井 篤子	・	平石 賢二
	河野 莊子	・	永田 雅子	・	狐塚 貴博
	野村 あすか	・	田附 紘平	・	野邑 健二
	福元 理英	・	神野 真麻	・	石川 佳奈
指 導 員	五十嵐 哲也	・	石川 雅健	・	伊藤 義美
	伊藤 亮	・	今村 友木子	・	大崎 園生
	蔭山 英順	・	葛 文綺	・	加藤 大樹
	加藤 容子	・	川島 一晃	・	川瀬 正裕
	清瀧 裕子	・	窪田 由紀	・	後藤 秀爾
	小林 佐知子	・	三後 美紀	・	杉岡 正典
	鈴木 健一	・	鈴木 亮子	・	瀬地山 葉矢
	千賀 則史	・	高橋 靖子	・	田畑 治
	坪井 裕子	・	西出 隆紀	・	西出 弓枝
	堀 美和子	・	前川 由未子	・	丸山 笑里佳
	丸山 宏樹	・	森田 美弥子	・	山内 星子
	山口 智子				
大学院研究生	濱家 徳子	・	林 亜希恵		
大学院生DC	浦田 有香	・	清水 麻莉子	・	陳 迪
	二宮 有輝	・	中島 卓裕	・	中野 まみ
	小橋 亮介	・	肖 瀛子	・	福田 律子
	原田 雅也	・	横山 佳奈	・	吉田 翔子
大学院生MC	伊藤 拓	・	稲垣 美絢	・	小島 朱理
	川島 万由子	・	崎山 美穂	・	酒井 麻紀子
	杉山 円香	・	角谷 友理香	・	鶴田 裕子
	中村 優花	・	丹羽 麻有	・	深谷 麻未
	藤本 みち	・	古橋 健悟	・	山田 優子
	吉川 菜摘	・	伊藤 寿津	・	王 斉秀子
	大塚 毬絵	・	大西 彩奈	・	金井 志保
	内藤 円佳	・	野村 菜月	・	福井 ゆたか
	二村 真太郎	・	松浦 渉	・	三浦 愛理
	茂菊 梓沙				
受 付	小笠原 順子	・	長谷川 千里	・	原 雅子